

## 第2回山形県津波浸水想定・被害想定検討委員会 議事概要

- 1 日 時 平成27年3月27日（金）午後1時～午後2時30分
- 2 場 所 山形県村山総合支庁 講堂
- 3 出席委員 今村委員長、澤委員、長谷見委員、八木委員、川原田委員、阿部委員、桐山委員、菅原委員、白田委員、上坂委員
- 4 議 事
  - (1) 第2回委員会の論点の整理について【確認事項】
  - (2) 計算対象とする津波断層について【協議】
  - (3) 被害想定項目について【協議】

### 【主な意見等】

- 連動する断層と連動しない断層が、資料では判別できない。
- 明瞭な海底地形があった方が分かりやすい。
- F34断層では、最近（1833年、1964年）地震が発生している。断層が陸に近い  
ため津波シミュレーションを行う意義はあるが、この断層は最近地震が発生している  
ため当分は地震が発生しないだろうという誤解や、津波高はF30断層による津  
波の方が高いから被害は大きくないという安心を生むようにならないように公表  
していくことが必要と考える。
- 浸水想定を10mメッシュで行うとのことだが、人が住んでいるところだけでも  
10mメッシュよりも細かいメッシュができないか。
- F34断層が動いた場合を想定した庄内海浜北部、遊佐岩礁の津波について、評価  
をしなくていいのか。
- 被害想定にあたっては、被害の「見える化」をするなど、見せ方を工夫することが  
必要と考える。
- 復旧方法、人命救助のポイントは「3日間」であるため3日間にどれだけのことが  
できるのか、何日間浸水してしまうのか、インフラの被害の程度によって復旧に要  
する日数や備蓄がどれだけ必要か、他地域からの応援がどれだけ必要かなど、被害  
想定後に作成する被害対応策のため、必要なデータを整理しておくことが重要であ  
る。
- 被害の「見える化」では、時系列でどういう被害が起きるのか想定することが大事。  
また、ある素因により次の被害を生じてしまうなど被害の複合化の想定も重要。
- 被害想定では、人の住んでいるところだけでも250mよりも細かいメッシュで被  
害想定をするなど、メリハリをつけてほしい。
- 被害の想定を行う際は、夏の観光シーズンを想定した被害を算定することも重要。
- 被害想定にあたっては、庄内地域特有の冬期間の暴風雪を考慮してほしい。